

【中学生議会 市長答弁様式1】

質 問 区 分	中学生議会	議 員 名	河野真歩 議員
発言順(通し番号)	NO:16	所管課・室名	長寿社会課

質 問 事 項	虐待、少子化、高齢化問題等市民が学ぶ機会を作って欲しい。
---------	------------------------------

【市長答弁】

河野（こうの）議員のご質問にお答えします。

市におきましても、児童や高齢者に対する虐待防止といった課題は抱えております。

市の65歳以上の割合である高齢化率は、今年10月1日現在29.0%となっており、これは10年前の合併時の22.2%を6.8ポイント、人数にして約6,500人の増加となっております。

一方、20歳未満の人口の割合は、現在17.8%となっており、10年前は19.0%ですので、率にして1.2ポイント、人数にして約1,300人の減となっております。

したがって、少子高齢化は予想以上に急速に進んでおり、今後は人口減少も進んでいくことも見込まれています。

このような社会の変化は、年金や医療、介護などの社会保障費の増大、さらには労働人口の減少、地域活力の低下を招くことから、その対応は急務となっております。

一例を申し上げますと、介護保険事業における要支援・要介護認定者数は、平成18年9月末時点で3,539人で、また平成27年9月末現在では5,114人であり、市の65歳以上人口の約17.5%を占めております。介護

保険給付費、これは市から介護保険事業者にお支払するサービス費ですが、平成 18 年度は市全体で約 53 億円だったものが、平成 26 年度は約 83 億円、10 年間で約 30 億円の伸びとなっております。介護保険の給付費は 40 歳以上の人からいただく介護保険料で 50%、国、県、市の税金で 50%を賄っています。

このうち市からは、介護保険事業費全体の 12.5%にあたる、約 10 億円を支出しておりますので、給付費の伸びは、結果的に市の財政負担を多くすることになります。

このことから、「健康長寿のまちづくり」、「豊かな人を育むまちづくり」を市の重点施策に掲げ、医療費や介護に係る支出の増加をなるべく抑えるためにも、元気で健康に暮らしていただくための施策を行っています。多くの市民の皆様がこのような具体的な課題を知っていただくことによって、今まで以上に市政に関心を持っていただけることが期待できます。

河野議員からのご提言は、課題解決につながる有効な手段であると考えますので、このような機会を増やす努力をしてまいりたいと考えております。

また、私も地域の催物や式典などに招待され、市民の皆様と接する機会が多くありますので、そのような折には、市の抱えている課題を話題にし、皆さまに知っていただくように心がけたいと思います。

【中学生議会 市長答弁様式1】

質 問 区 分	中学生議会	議 員 名	二木悠美子議員
発言順(通し番号)	NO:17	所 管 課 ・ 室 名	長寿社会課

質 問 事 項	児童虐待への取り組みについて
---------	----------------

【市長答弁】

続いて、二木（ふたつぎ）議員のご質問にお答えします。

昭和40年ころまで、農業を中心に生活をしていたときは、近所どうしが協力しあって農作業をし、子どもも近所の人が見ていてくれたということがありましたので、自然と大人が近所の子どもを知り、地域で子どもを育てていくということができていたと思います。

今は小規模な家族が増え、近所どうしが協力しあわなくても生活ができるようになり、また、個人やプライバシーを尊重するという機運が高まったため、地域での絆が薄れてきているということが確かにあります。

児童虐待の現状としましては、平成26年度、46件の新規相談がありました。内容は様々ですが、児童の保護の怠慢・拒否（ネグレクト）が最も多く24件、次いで身体的虐待、心理的虐待の順となっています。

虐待者は、実の父親が最も多く22件、母親が17件、と、両親からの虐待がほとんどであります。

幸い、当市においては児童の命に係る重大な事案は発生していませんが、警察や児童相談所などの関係機関と情報を共有しながら、対応して行きたいと考えております。

現在は、虐待の防止のみではなく、防災や地域福祉を進めるうえで、近所のつながりがいかに大切で必要なことから、各地域でそのことに気づき、個を尊重しながらもお互いが助け合って暮らしていくにはどうすればいいか、地域の中で話し合いが始まっています。

このことから、市は、そこに住んでいる人達と一緒にあって、いい地域を創っていくということに取り組んでいます。これが協働のまちづくりであり、地域福祉の推進というキーワードで事業をすすめてまいります。

【中学生議会 市長答弁様式1】

質 問 区 分	中学生議会	議 員 名	小澤美祐議員
発言順(通し番号)	NO:18	所管課・室名	子ども支援課

質 問 事 項	子育て支援への取り組みについて
---------	-----------------

【市長答弁】

続いて、小澤(おざわ)議員のご質問にお答えします。

子育て支援は、人口増対策の一つとして、重要な施策であると考えています。

全国的に核家族化が進み、子育てに関し、だれにも相談やアドバイスを受けられず、不安や悩みを抱えながら、子育てをしている方々が増えてきていると思います。

子育て支援に関しましては、福祉部・保健医療部・教育部などの関係部局が連携し、必要な支援やサービスを提供しています。

ご提案の、親同士のふれあいのできる施設としての公園の整備につきましては、都市建設部において、計画的に整備を行っております。

公園のほか、児童館や交流館などでも、子育てに関する相談や事業を実施しています。

さまざまな施設において、親子や、その親同士が交流し、その中で不安や悩みについて話ができることは大変重要なことでもあります。今後も計画的な整備を行いながら、交流の場として提供して行きたいと考えております。

【中学生議会 市長答弁様式1】

質 問 区 分	中学生議会	議 員 名	横川 伊吹議員 曾根原 怜議員
発言順(通し番号)	NO : 19, 20	所 管 課 ・ 室 名	健康推進課

質 問 事 項	高齢化社会に向けて
---------	-----------

続いて、関連がありますので、横川議員と曾根原議員のご質問にお答えします。

安曇野市は高齢化率が、平成 27 年 10 月 1 日現在 29.0%となっており、全国平均に比べて高齢化が進んでいる自治体であります。

そのため、医療や介護などの社会保障費の伸びなどの財政的な課題に対して、取り組みを強化していかなければ、さらに多くのお金がかかることとなります。

具体的には、国民健康保険と介護保険の平成 21 年度と 26 年度の歳出状況を金額で比較いたしますと、まず、国民健康保険特別会計の

平成 21 年度歳出額は、約 91 億 1,474 万円、
平成 26 年度歳出額が、約 107 億 1,540 万円となっており、約 16 億 66 万円増えています。
率にしますと、17.6%の伸びとなっています。

また、介護保険特別会計では、
平成 21 年度歳出額が約 63 億 8,692 万円、
平成 26 年度歳出額が、約 82 億 7,141 万円で、
約 18 億 8,449 万円増っており、率にしますと、29.5%の伸びとなっています。

いずれも、ここ 5 年間で大きく伸びています。

そこで、市では「健康長寿のまちづくり」を目指して様々な取り組みをしており、その一つとして、若いころからの健診受診や生活習慣病対策を行い、予防可能な病気で健康が損なわれないよう、事業を行っています。さらに、高齢になっても住み慣れた地域でお互いに支えあい、安心してより長く自立した生活が送れるような施策を推進していきます。

生涯を安心して、生き生きと暮らすことは、全ての人々の願いではあります。

それを実現するためには、行政だけでなく、地域や関係団体、そして何より市民の皆様一人ひとりの行動にかかってきます。

今後とも関係団体と連携するとともに、市民の皆様にもご参加いただき、「自分の健康は自分で守る」ことを基本に、家族、地域へと広がっていくように、社会全体で取り組む体制整備を行っていきたいと考えます。